

看護部通信

2006.1.1 発行 第9号

2006年は“チャレンジ・充実・大切にする年”にしよう!

2006年は診療報酬の大幅改定があり、健全経営に向けて様々な病院が知恵をしばっています。私たちもこれまでの知識・経験を発揮するとともに、新たな発想ですすめていくことが必要になります。つまり、2006年は“チャレンジの年”です。

2006年は看護部のビジョン(中・長期):図 を掲げてから2年目になります。一人一人が実現に向けて、自分のもっている力を表現し、目標をもって具体的に行動していくことで充実した1年になります。つまり 2006年は“充実の年”です。

人は大切にしているものが大切にされた時、または、反対に大切にされなかった時は、感情(怒り・悲しみ・喜び・充実)が揺れます。患者様はもちろん、自分・仕事仲間・家族・友人など、大切にしたい人の感情に気づけるように心がけ、大切にしていることを言葉や行動で伝えていきましょう。

つまり、2006年は“大切にする年”です。

【看護部長 岡山ミサ子】

看護部のビジョン(中・長期)

腎臓病・糖尿病・透析療法とその周辺治療・ケアに特化し、「個とチームのもてる力」「歴史と専門性」を最大限に活かし、利用者や社会に信頼される看護部をめざす。
2005. 4. 1

新たな病棟の旅立ち

2006年1月1日より、3階病棟は一般病棟として急性期の患者対象の看護ケアを中心に、2階病棟は医療型療養病棟として急性期後の要医療患者を対象に、良質の看護・介護ケアの提供を目指します。在宅への復帰を目標に日常生活自立度を高めるよう取り組みます。療養環境を整え、患者・スタッフとも笑顔あふれる病棟にしたいと思えます。【病棟 師長 洲崎英子】

病棟24時「病気はリアルタイムで動いてる」病院の形態が変わっても私達は今まで以上に安全で安楽なケアで、患者様から信頼されるよう努力していきたいと思えます。

【病棟 師長代理 題佛真実】

記念病院との新しい連携の形やサルビアやホスビー居宅に続く療養病棟の新設で、より患者様に優しい在宅復帰支援ができるような体制を整えていければと思っています。

【病棟 主任 井上矢子】

療養型の病棟ということでアットホームな雰囲気、居心地が良いと患者様に思っただけのような介護を目指し努力していきたいと思えます。

【病棟 ケアスタッフ 朱亀恒子】

私たちは利用者と家族の方に「ほんの少し人生のお手伝いができれば・・・」と思っています。スタッフ一同、明るく笑顔で頑張っていきます。

【病棟 主任 松田はるみ】

新生会透析部門の取り組み



在宅透析教育センター

在宅透析教育センターが新しい部署として再出発してから3年が経ちました。その間、新規に家庭透析を導入した患者は12名です。最近は導入訓練のために仕事を休めないケースが増え、指導方法やスケジュールを工夫しながら教育をしています。患者・介助者とともに作り上げていく過程は、かなりエネルギーを消耗しますが、やりがいのある仕事だと思っています。家庭訪問が十分できないので、受診された時や電話でのやり取りなどを大切にしています。

また、家庭透析歴30年以上の方も大勢います。その中で、透析歴37年6ヶ月の今も現役で仕事をしている方は私たちの誇りです。11月19日に『家庭透析（HHD）の普及に向けて 患者様から学ぶ会』を開催しました。8組の方から体調が良かった、子供との関係が良かったなど家庭透析をして良かった点、問題点を挙げていただきました。あらためてHHDの良さを感じました。

【師長 宮下美子】



血液浄化センター



血液浄化センターでは、前半のセンター会議を事例検討や仕事をしていて疑問に思っていることなどを題材として勉強会を始めました。今までやった事として、セルフケアのVTR学習や、クリットラインやソノクロットについて臨床工学技士に講義をしてもらいました。参加したスタッフからは『セルフケア支援に関するアプローチで患者とじっくり関わってやっていけたら、仕事に対する意欲も高まる』『事例を使って説明してもらい、補液や除水を止めるとどうなるのかなど、理論的にわかった』『勉強会という場でスタッフが一緒に学べたことで知識を共有することができ、現場で活かすことができそう』という前向きな意見が聞かれました。今後の予定としては、1月は「介護保険について」、2月は「ペースメーカーについて」を予定しています。

【看護師 澤村美海】

十全クリニック

☆新規転入患者様へセルフケアの充実に向けて取り組んでいます！！

「慢性腎不全は治ることのない病気であり、患者様に正しいセルフケアを行い、その人らしさがいきいきと発揮される日々を送られることを願って・・・」

受持ちの看護師が教育計画を立案し、透析中パンフレットなどを用いて導入期教育をしています。

<患者様の声>

- ・導入時、自由参加の教育でしっかり勉強できなかったため、分らなかったこと、知らなかったことを分かりやすく教えてもらえ、非常によい。
- ・内容が生活に大切なことばかりで、何に気をつけたらよいかとても勉強になる。
- ・本を読んで勉強していた、分からないことが聞けて満足している。



私たちの実践から患者様の不安や自己管理の必要性などの声が聞かれ、スタッフ一同、患者様とともに頑張っています！
【看護師 加藤直美 看護師 村上裕香】

身につけよう！ 接遇を！

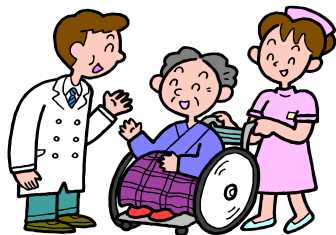
第1回



医療サービスに対する国民のニーズも多様化し、「患者主権」の医療では、接遇は大変重要な因子になっていきます。良い接遇が、良い人間関係を作り上げていくので、働きやすい職場作りと患者さまの満足度アップを目指して、接遇マナーを身につけましょう。【金山クリニック 看護師 伊井たか子】

「接遇」とは・・・広辞苑で引くと「もてなし。接待。あしらい」とあります。

患者さまは、自分がどのように扱われているかを、接する側の言葉や態度、表情、動作から判断します。ですから、言葉や態度のすべてに「あなたは、私にとって、とても大切な方です」と表すような接し方が、良い接遇となります。



温かい思いやりを伝えるマ

フ あいさつは、人間関係の始まり

接遇の5つの基礎

1. あいさつ
2. 表情
3. 身だしなみ
4. 言葉づかい
5. 態度

自分から、気持ちよく、親しみを持って、丁寧にあいさつできる人になりましょう。

「オアシス」は、あいさつの基本です

- (オ) 「おはようございます」
- (ア) 「ありがとうございます」
- (シ) 「失礼いたします」
- (ス) 「すみませんでした」

おはよう
ございます

あいさつと関連して忘れてはいけないのが返事です。返事もあいさつのうち。「ハイ」とタイミングよく返事をしましょう。

いきいきナース

金山クリニック開設25年目で、初めて男性の看護師が入职しました。仕事にサッカーとはりきりボーイの榎本 聡さんにインタビューしました。

Q. 市立輪島病院を退職されて、当院に就職された理由は？

A. 出身が輪島市ですが、新卒で、配属された場所が透析室で、仕事が楽しく、続けていきたいと思い、勉強するために、透析専門で規模の大きかった金山クリニックを選びました。
(2005年5月の名古屋での腎不全看護セミナーにはしっかり参加していました)

Q. サッカーを続けているとのことですが、良かったと思うことは？

A. 小学校4年生から始め、今は「HRS」というチームに属して、主として日曜日に、平日は夕方に「名古屋ベイフットサルクラブ」にて練習しています。ボールを蹴ることでストレスを発散でき、良い気分転換となり、仕事も頑張れます。

これからも、仕事と趣味を両立させることで、スポーツマンの爽やかさと看護師のやさしさを、患者さんのケアに役立てていただけたらと思います。

【金山クリニック 師長 江崎真知子】



【編集：岡山、江崎、松井、野本】